

こんにちわ

2023年12月
第171号

NPO法人 たすけあいこんにちわ機関紙

〒262-0025 千葉市花見川区花園1-6-7

TEL 043-296-3221 FAX 043-296-3243

メールアドレス tasukeaikonnichiwa@theia.ocn.jp

月～金 9:00a.m.～6:00p.m.

休業日 土曜日・日曜日・祝日

今年は記録的な暑さで、公園や街路樹の紅葉も遅く11月半ばすぎてから色づきがみられるようになりました。

新型コロナは少し落ち着き始めていますが、インフルエンザの流行もあり、まだまだ注意しなくてはいけないと思っています。

最近の新聞で介護ヘルパー不足の記事を目にしました。現状のままでは介護が崩壊するというものでした。私達にも直面している課題でもあり共感することが多くあります。来年は3年ごとの介護保険制度改正の年ですが少しでも良い方向になることを望んでいます。

寒さが日ごとに厳しくなる時期です、体調に気をつけてお過ごしください。

事務局長 丸尾幸子



- ☆ 困った時の“たすけあいこんにちわ”
- ☆ 介護保険訪問介護事業所
- ☆ 介護予防訪問介護事業所
- ☆ 障害者総合支援訪問介護事業所
- ☆ 介護用品“こんにちわのお店”
- ☆ 千葉市給付事業指定業者（紙オムツ）

◎毎月第一（土）の事務局会議は開かれた会議です。

ご意見のある方はいつでも自由参加でき、発言もできます。

遠慮なくご参加ください。

訪問介護の仕事をする中で何かのきっかけで、利用者さんが経験された人生のワンシーンを話してくださることがあります。

今回はKさんとMさんの貴重なお話をまとめてみました。



Kさん（1943年生まれ）のお話

2歳の時、爆心地から3.6kmの長崎市矢の平で被爆しました。1945年8月9日11時2分、落下傘に吊るされた原子爆弾は長崎市の中心街から北へ4kmほどの松山町上空490mで爆発しました。

広島投下と比べ、約2倍もの破壊力があり、広島の前爆ドームのような被爆建造物は殆ど残っていません。標高366mの金毘羅山のおかげで私は熱線を直接受けなかったのが即死は免れました。家の縁側で水遊びをしていた私は熱風で6mほど飛ばされ全身やけどで庭の苔面に倒れていたそうです。もし金毘羅山の遮りがなければ、高地に住んでいた人々と同様に即死だったでしょう。

ピカドンを受けたため、肺の一割程度が壊死しており、運動ができなくて、体育の授業はいつも見学でした。小学校では友人達から「(体操の時間をさぼって)ずるいよ」と言われ悲しかったです。さらに高校2年の春からは連日、全身にかゆみがあり、掻き傷と瘡蓋だらけでした。



このような体験を話して下さったKさんは、被爆による体の不調を抱えながらも商社マンとして海外を飛び回り頑張られたとのこと。現在は肺疾患のため在宅酸素を手放せない生活ですが、ご自身のペースでゆっくり過ごされています。



Mさん（1926 年生まれ）のお話

牛久村（現在の市原市）で育ち男 4 人女 4 人の 8 人兄妹。
子供の頃、校長をしていた厳格な父が赴任先から帰宅すると
子供たちは緊張し、言葉数も少なくなり・・・
お隣は賑やかで楽しそうな家族でうらやましく思いました。



私が 10 歳、妹は 6 歳、末の弟は 3 歳の時に東京の商社に勤めていた長兄が、母と兄弟姉妹 7 人を東京のデパート（銀座の松坂屋）へ連れて行ってくれました。初めて、小湊鉄道に乗り五井からは汽車で千葉、千葉からは電車で東京に。丸の内辺りを歩いているとたいそうな人混み。当時、ほとんどの人が着物姿で弟はよその人の着物の袖をつかんで迷子になりかけました。レストランで何を食べたのかは思い出せないけれど疝の虫が強い妹がずっと泣き続けていたことや、弟が足こぎの大きな車をほしがって離さず、仕方なく買い、抱えて持って帰ってきたことなどが記憶にあります。

また、女学校高学年からは戦争の為にバスの燃料がなくなり 6 km の山道を下駄履きで毎日往復しました。卒業後は長兄の縁で東京丸の内の商社へ勤めましたが着ていく洋服がなく、当初は女学校の制服で通勤しました。

その後、姉と二人で井の頭線の代田二丁目にアパートを借りました。東京大空襲の日はアパートの物干しから見た空が真っ赤でぞっとしました。翌日の出勤は大変で井の頭線で渋谷まで、山手線で五反田までは行けましたがそこからは歩くしかなく御殿山を超え品川駅まで歩きましたが電車は不通。また歩いて新橋、銀座、数寄屋橋を通り丸の内の会社に着きました。どれほど時間がかかったのか全く覚えなし。帰りも同じ様に歩きました。当時は楽しい目的もなくただ生き延びるだけで必死でした。

長兄は商社の油脂部の仕事でジャワへの航海中、東シナ海で砲撃され船は沈没、33 歳で戦死し牛久村で町葬が行われました。

戦争が終わり、昭和 35 年に長姉が建てた今の家で、次女の私と三女の妹が同居し協力して仲良く暮らしはじめました。それぞれ仕事を持ち、しっかり働きました。趣味として琴やお茶、着物なども楽しみました。三姉妹の共同生活は半世紀以上続きましたが今は一人となり在宅での支援を受け（ヘルパー、訪問看護、訪問リハビリ等）ゆっくりと読書などして穏やかな日常を大切に過ごしています



<活動実績>

2023.4~2023.10

月		たすけあい	介護保険	障害者サービス
4月	ケース	8	26 (総合 8)	9
	時間	30.5	222 時間 50 分	117.5
5月	ケース	8	26 (総合 9)	8
	時間	40.5	234 時間 5 分	125.5
6月	ケース	11	26 (総合 9)	8
	時間	38	234 時間 55 分	124.5
7月	ケース	10	25 (総合 8)	8
	時間	40.75	217 時間 25 分	122.5
8月	ケース	12	24 (総合 8)	8
	時間	62.75	167 時間 25 分	80.5
9月	ケース	11	23 (総合 7)	7
	時間	57	141 時間 20 分	66.5
10月	ケース	9	24 (総合 8)	7
	時間	46.5	153 時間 40 分	65.5

年末年始のお知らせ



